

ポスト750 宗門布教の方向性 第6回 法華宗真門流

行学二道の精進と 時代にあった布教の実践

日蓮聖人門連だより

発行
日蓮聖人門下連合会
〒146-8544
東京都大田区池上1-32-15
電話 (03) 3751-7181

平成16年2月16日
第29号

法華宗真門流宗務総長

竹内正道



御生誕八百年にむけて

法華宗真門流では「高祖、開祖の御心にかえらう。合掌しあう友をつくらう」のスローガンで合掌運動を展開しております。昨年十月には、後柏原天皇より「法華宗日像菩薩正統一門之開闢常不輕院日真者称大和尚也」との御宸翰を賜わりましてより五百年の聖年をむかえ慶讃法要を厳修いたしました。天皇陛下より御供物を御下賜いただきました。御叔慮に報謝しつつ厳肅に記念法要をつとめさせていただきます。日像菩薩や開祖の不惜身命の艱難、御苦勞を想い破邪顕正、四海皆帰妙法の誓いに邁進する願いをあらたにいたしました。

これから日蓮聖人御生誕八百年にむけて、宗門護持興隆、合掌運動を展開しなければなりません。行学二道の精進と今の時代にあった布教の実践が必要なのはいうまでもありません。「行学二道をはげみ候べし、行学絶えなば仏法あるべからず、われもいたし、人をも教化候え、行学は信心よりおこるべく候」の御教示はどんな時代になっても大切だと思います。信心と信念の教学を樹立し、時代のニーズに合致した布教を

推進しなければなりません。この聖年を期にホーム・ページによる布教も開始いたします。

社会問題への統一見解、 統一行動を

現在の日本は、明治維新よりもっと大きな変革期に突入しています。少子高齢化はついに毎年六十万人口が減少して百年後には、人口が半減することがほぼ確実になってきました。土地も財産も価値を下げ、その日の生活にも困る人が急増しています。若者のフリーターが四百五十万人になっており低所得層が増加しています。精神病予備軍や覇気のない若者がどんどん増加しています。環境の問題も宇宙空間の有機物に含まれているウイルスの報告もあり、宇宙空間に異変が起つており、天災人災が急増するともいわれています。

今までの常識は非常識となり、世の中は「大濁世、大混沌の時代」です。先哲が「宗教を失った社会は道徳も崩壊し、人間は知的野獣となる」

さて、現在の社会が危機的状況であるという認識は誰でも感じていることですが、国際競争力の低下、不況、失業、財政の悪化、特に治安の悪化は生命軽視の風潮となり、環境問題とともに極めて深刻になってきました。中国の李鵬元首相がオーストラリアで「日本をこのままの状態にしておけば二十一世紀には国の存在が急速に融けて地球上からなくなってしまう」と公言していたことが現実のことになるのでしょうか。「国際化」とか「グローバル化」「グローバル化」とか「グローバリゼーション」のうたい文句につられて、日本は国としてのアイデンティティを喪失して急速に融けてなくなるのでしょうか。

明治維新は文明開化に流されることなく、「和魂洋才」で日本の独立自尊を主張して近代日本を形成したの心をついて「洋魂洋才」を主張するものが多く、ついに戦争の敗北という事になりました。そして、その後の経済成長で「無魂洋才」となりエコノミックアニマルの国といわれていきましたが、これもバブルの崩壊で「無魂無才」の危機の時代をむかえたのです。

日蓮聖人は日本が世界に類例をみない国であることを鎌倉時代に見抜いておられました。「一切の大事の中に国の亡ぶるは第一の大事なり」といわれており、われわれの生き甲斐の根幹である日本人の精神の大切さを主張されたのです。今の日本は教育の荒廃、少年犯罪の増加、家庭の崩壊、児童虐待、環境破壊、そして何より愛国心も規範意識もないものが増加してきた精神的危機の時代であり、「国が融けてなくなる」のかも知れないのです。

日蓮聖人は災害と政治の混乱の時代に大衆の苦悩を憂い、国が亡ぶるのを憂いて迫害にひるむことなく仏国土実現に生涯を捧げられ日本人の心を覚醒されましたが、日蓮聖人の法華信仰の原点にたつて、その精神

と予告した精神的危機に、われわれはあまりにも多岐にわたる課題の前に無力感にうちひしがれてしまっています。しかしながら、「知法思国の伝統と死身弘法の学風」を継承したわれわれの使命を再認識して、立正安国の大宣言に精進したいものです。かつてない混沌の社会で布教活動を実践することは不惜身命の信念が必要ですが、そのためには現代の社会に適合する教学が不可欠です。実証的な研究や歴史学的な研究は相当な成果があり、多くの論述が発表されていますが、それらの成果にたつて、現代に宗祖がおいでならどうされたかという価値観の生きた教学が必要です。脳死・環境・テロ・人権などについて、あるいは男女共同参画社会についてどのように対応するかの

一切の大事の中に国の亡ぶるは 第一の大事なり

統一見解がほしいものです。その課題で統一見解が成立すると門連の僧俗を喚起させることができ、統一行動も可能となり、立正安国の輪が広がります。

日蓮聖人は日本が世界に類例をみない国であることを鎌倉時代に見抜いておられました。「一切の大事の中に国の亡ぶるは第一の大事なり」といわれており、われわれの生き甲斐の根幹である日本人の精神の大切さを主張されたのです。今の日本は教育の荒廃、少年犯罪の増加、家庭の崩壊、児童虐待、環境破壊、そして何より愛国心も規範意識もないものが増加してきた精神的危機の時代であり、「国が融けてなくなる」のかも知れないのです。

日蓮聖人は災害と政治の混乱の時代に大衆の苦悩を憂い、国が亡ぶるのを憂いて迫害にひるむことなく仏国土実現に生涯を捧げられ日本人の心を覚醒されましたが、日蓮聖人の法華信仰の原点にたつて、その精神



総本山本隆寺本堂

お願い

「門連だより」の継続発展のため各派のご協力を切にお願いいたします。本誌に対する感想要望など、ぜひお寄せ下さい。

「日蓮聖人門連だより」編集委員会

從地涌出

▼立教開宗七五〇慶讃事業が滞りなく円成した。門連の記念事業により、多くの日本人が日蓮聖人に接したことは疑いない。たくさん宝物が、東京国立博物館の展示スペースに所狭しと並んだ。それは日蓮聖人を師と仰ぎ、後世の人に何らかの正しきことを伝えたいという先人先師の、限らない努力と汗の結晶である。

▼しかし、今の我々は果たしてどれだけのものを次の世代に遺せるのだろうか？別に形あるものをのこせと提言しているのではない。無形のものでも、例えば教育を施すことにより、多くの日蓮聖人門下を誕生させることができる。これとて今の私たちがなせばできる無形財産の創造である。▼教育はいうまでもなく、一朝一夕で貫徹するものではない。良き環境と長い時間が必要である。それも絶え間なく継続させなければ、まったく意味がない。ということは、強い意志をもって教育を施す覚悟がそこに必要となってくる。それも、日蓮聖人の教えに基づくものであれば、天下無敵の門下生が誕生する。地から湧き出る菩薩の出現を待つのではなく、我々が湧き出さなければならぬのである。▼そこで七五〇を過ぎた今、きたる聖祖ご降誕八百年の佳年に向かつて、次なる行動をおこす時機を迎えている。何も考えずに、ただ時の経過を待つのか。それとも明確なる指針のもと、行動するの。か。ひとえに私たちの覚悟一つで未来は決まるのである。さてさて、どちらを選ぶか。▼日蓮聖人は弟子に次のように語られた。「諸仏の眼目たる妙法蓮華經の五字、末法の始に一闍浮提にひろまらせ給べき瑞相に日蓮さきがけしたり。わたうども二陣三陣つづきて、迦葉・阿難にも勝ぐれ、天台・伝教にもこへよかし」なんと勇気づけられる言葉であろうか。今まさしく私たちが、日蓮聖人の教えを、現代版「立正安国」運動として、それも自行としておこなわなければならないのである。その意味では今年、門連の役割がなんと大きいことか。▼まさにほんやりとしてはいけぬ世の中である。

収入の部

項目	決算額	備考
入場料	160,214,029	当日券 75,278人・門下販売分 81,725人・その他
図録販売	45,520,970	販売総数 25,105冊
音声ガイド貸出	6,509,100	貸出総数 25,067台
グッズ販売	29,852,055	館内記念品販売
搬出金(日蓮宗負担)	160,000,000	80,000,000を2回に分けて
合計(A)	402,096,154	

支出の部

項目	決算額	備考
調査・交渉費	5,041,182	調査出張交通費等
作品拝借料	685,391	拝借謝礼8件(門連寺院以外の美術館・個人所有等に)
作品修復費	2,542,940	修理・修復8件
作品保険料	6,944,200	保険評価額 67億470万円
輸送費	36,750,000	集荷・梱包・展示・撤去・返却一式
映像制作費	2,100,000	会場内ビデオルーム放映用テープ制作費
出張費	6,493,534	東博学芸員・門連事務局員・産経職員
レセプション費	4,921,614	H15.1.14.前日オープニング・パーティ代
イベント費	1,468,333	立松和平氏講演料・雅楽声明出演料
会場付帯設備	6,044,917	会場内電気・水道代、トイレ清掃費
会場運営・警備費	12,274,827	会場内事務局費、券売・監視人件費
会場設営・展示雑費	46,200,000	展示ケース・看板・パネル等
印刷費	13,000,000	ポスター・チラシ・チケット
媒体費	50,676,105	新聞・テレビ・雑誌・交通広告etc
媒体制作費	1,129,328	記者発表会場費・取材費を含む
図録制作費	42,000,000	28,000冊
グッズ製作・運営費	24,779,246	展示会グッズ製作費と物品販売の人員費
通信費	1,623,411	ポスター・内覧会案内状・発送費
社外者旅費	2,574,630	大塚工芸・美術出版・その他
雑費	948,159	ハローダイヤル通信・運営費・スタッフ会議費
業務委託費	2,100,000	ティークムへPR事務局委託経費10月~2月(5ヶ月)
ビデオ撮影・編集費	8,400,000	展示会準備~終了までの撮影・編集・制作費
東京国立博物館への支払い	44,854,440	
産経新聞社手数料	17,844,445	
合計(B)	341,396,702	

収益配分

収支(A)-(B)	60,699,452	
産経新聞社の収益配分	12,139,890	収支の2割分
日蓮聖人門下連合会の収益配分	48,559,562	収支の8割分 ……①

門連収益から使用した経費

贈呈図録及びVTR	18,727,071	図録・ビデオ制作費
物販制作費	1,181,250	携帯deミラー
送料	3,332,491	約8,000ヶ寺への図録・ビデオ配送費
大日蓮展事務局費	500,000	残務処理に関する経費
合計	23,740,812	……②

剰余金 ①-②	24,818,750	2,000,000円を門連経常会計「750事業費」へ、 22,818,750円を特別会計「日蓮聖人降誕800年事業資金(仮題)」へ
---------	------------	----------------------------------------------------------------------



大日蓮展決算報告

この決算報告書は、平成十五年六月十二日に開催された身延理事會、そして平成十五年十一月二十七日に開催された京都理事會に於いて承認された決算報告であり、また本展の企画趣旨を御理解の上、御所蔵の御宝物を出展賜りました各御寺院、そして期間中に多くの法華経有縁の方々をお誘いの上、来場して頂きました門下各御寺院には甚深より感謝申し上げますと共に、紙面

をお借りしまして盛大且つ成功裡に終えました事を御報告させて頂きます。さて、この展覧会は、東京国立博物館・日蓮聖人門下連合会・産経新聞社の主催にて、立教開宗七五〇年記念事業として平成十五年一月十五日より二月二十三日まで、三十五日間に亘り東京国立博物館において開催されました。

本展は日蓮門下各派に格護される宗教遺産とともに信者による様々な美術工芸品を広く紹介し、法華経と日蓮聖人の文化的影響を検証しようとするものであり、日蓮門下に関わる霊宝がこれまで一堂に公開されたことはなく、多くの人々にとりまして千載一遇の機会となりました。お蔭様をもちまして開催期間三十五日間で延べ一五一、六六〇人の入場者を数えました。収支報告は左表の通りです。尚、剰余金のうち、二〇〇万円を記念事業残務処理での使用を目的として門連経常会計の「七五〇事業費」へ、残りの二二、八一八、七五〇円を特別会計「日蓮聖人降誕八〇〇年事業資金(仮題)」として門下連合会の今後の事業にあてることとなりました。

護法団参は、日蓮宗指定旅行社の
東急観光にお任せください。



美しい時代へ
東急グループ

行ってらっしゃい、
いい旅へ。

豊富な経験と実績を生かして、いちばんの旅をおつくりします。大きな感動と、心に残る出会いのために。私たち東急観光は、総合力でお応えします。豊富な商品と旅のプロフェッショナルが、個人旅行から団体旅行まできめ細かく対応。全国網の支店と海外の主要拠点を結ぶ、充実のネットワーク。お客様一人ひとりのご要望と目的にあわせて、旅のプロローグからエピローグまで演出します。あなたにいちばんの満足を。

—— 旅のすべてを知っている東急観光です。 ——

慶讃 日蓮聖人御降誕

平成三十三年は
御降誕八百年を
迎えます



日蓮聖人門下連合会

(平成十六年一月現在)

日蓮宗宗務院

管 長 藤井 日光 財務部長 中條 令紹
 宗務総長 岩間 湛正 宗務総長室長 遠藤 文祥
 伝道局長 藤崎 一明 立教開宗七百五十周年
 慶讃会事務局長 田澤 元泰
 総務局長 栗原 正震 現代宗教研究所長 久住 謙是
 伝道部長 田端 義宏 参 堀江 宏正
 教務部長 三坂 惠人 参 浅井 玄裕
 総務部長 小倉 光雄 日蓮宗新聞社長 西嶋 宏明

〒146-8544 東京都大田区池上一-三二-一五
 電話 〇三(三七五)七七八一
 FAX 〇三(三七五)七七八六

法華宗(本門流)宗務院

管 長 大塚 日正
 宗務総長 渡辺 俊岳
 財務部長 佐藤 義賢
 教学部長 佐々木 明乘
 教化部長 高村 法顕
 庶務部長 有田 秀達

〒103-0013 東京都中央区日本橋人形町二-一九-一
 電話 〇三(五六一四)三〇五五
 FAX 〇三(五六一四)三〇五六

顕本法華宗宗務院

管 長 中山 日曉
 宗務総長 中村 通義
 宗務次長 渡辺 昭夫
 庶務部長 島田 幸晴
 財務部長 藤崎 行学
 布教部長 早川 義正
 教務部長 桑村 信慶
 社会部長 多門 顕正

〒606-0015 京都府京都市左京区岩倉橋枝町九一
 電話 〇七五(七九二)七二七一
 FAX 〇七五(七九二)七二六七

法華宗(陣門流)宗務院

管 長 鈴木 日艸
 宗務総長 土屋 善敬
 総務部長 佐古 弘文
 教学部長 門谷 東生
 財務部長 八木 恵岳
 教化部長 佐古 大弦
 宗務参事 大島 崇皐

〒170-0002 東京都豊島区巢鴨五-三五-一六
 電話 〇三(三九一八)七二九〇
 FAX 〇三(三三五六)〇二二一

本門佛立宗宗務本庁

講 有 野崎 日丞
 講 尊 梶本 日裔
 宗務総長 山内 日開
 宗務副総長 石田 日奥
 宗務副総長 嶋田 幾雄
 宗務本庁役員一同

〒602-8377 京都市上京区御前通一条上東整町一-一〇番地
 電話 〇七五(四六一)一一六六
 FAX 〇七五(四六四)五五九九

日蓮本宗宗務院

管 長 嘉儀 日有
 宗務総長 野間 正明
 総務部長 長崎 秀要
 教学部長 岩崎 広義
 財務部長 原 光明
 法務部長 原 光明

〒606-8362 京都市左京区新高倉通孫橋上北法皇町四四八
 電話 〇七五(七七二)三三九〇
 FAX 〇七五(七七二)五九一四

法華宗(真門流)宗務院

管 長 上川 日乾
 宗務総長 竹内 正道
 総務部長 上田 浩岳
 教学部長 辻本 寛孝
 教化部長 木村 完祥
 財務部長 堀村 智泰
 社会部長 井上 隆啓
 主 事 本多 信正
 主 事 足立 真正
 主 事 山口 英泰

〒602-8447 京都市上京区警恵院通り五上上北紋屋町三三〇
 電話 〇七五(四四一)五七六二
 FAX 〇七五(四四一)五六六六

本門法華宗宗務院

管 長 杉本 日慈
 宗務総長 高邊 信幸
 宗務部長 信隆 日系
 財務部長 増田 隆雄
 総務部長 藤井 宏長
 庶務部長 土畑 信教
 教務部長 音羽 隆全
 門連常任理事 山下 通雄

〒602-8418 京都市上京区寺之内通大宮東大妙蓮寺前町八七五
 妙蓮寺内
 電話 〇七五(四五二)三五二七
 FAX 〇七五(四五二)三五九七

宗教法人 国柱会

責 任 主 田中 暉丘
 理 事 長 古知 毅彦
 門連常任理事 石見 良教
 門連理事 井上 宝護
 門連理事 相澤 宏明

〒132-0024 東京都江戸川区一之江六一-一九-一八
 電話 〇三(三六五〇)七二二一
 FAX 〇三(三六五〇)九九八〇
<http://www.kokuchukai.or.jp>

京都日蓮聖人門下連合会

会 長 上川 日乾
 副 会 長 久村 日鑿
 理 事 長 矢放 眞文
 副 理 事 長 杉若 恵隆

京門連事務局
 〒602-8447 京都府京都市上京区紋屋町三三〇
 法華宗真門流総本山本隆寺内
 電話 〇七五(四四一)五七六二
 FAX 〇七五(四四一)五六六六

日本山妙法寺大僧伽

主 座 塙 行幸
 長 老 石山 定光
 長 老 吉田 行典
 長 老 酒井 天信
 長 老 今井 行康
 長 老 二宮 和嘉
 長 老 池田 行朗

日本山妙法寺大僧伽事務局
 〒206-0812 東京都稲城市矢野口三三-五七-一番地
 電話 〇四二(三七八)三三九五
 FAX 〇四二(三七八)〇七四四



慶讃 日蓮聖人御降誕

平成三十三年は御降誕八百年を迎えます

日蓮聖人門下連合会

(平成16年1月現在)

<p>法華宗(陣門流)総本山 本成寺</p> <p>〒955 0845 新潟県三条市西本成寺一―一―二〇 電話 〇二五六(三三)〇〇〇八</p> <p>責 首 鈴木 日 艸 執 事 長 真 保 行 宣 執 事 鈴 木 頭 正 執 事 栗 田 孝 之 執 事 高 橋 俊 二</p>	<p>顕本法華宗総本山 妙満寺</p> <p>〒606 0015 京都府京都市左京区岩倉幡枝町九一 電話 〇七五(七九)七一一 FAX 〇七五(七九)七二六七</p> <p>責 首 中山 日 暁 執 事 長 島 幸 晴 執 事 林 本 晃 道 執 事 中 村 英 孝 瑞 執 事 湯 原 正 義 純 執 事 寛 就</p>	<p>日蓮宗大本山 池上本門寺</p> <p>〒146 8576 東京都大田区池上一―一―一 電話 〇三(三七五)二二三一 FAX 〇三(三七五)三三五〇</p> <p>責 首 酒井 日 慈 執 事 長 早 水 日 秀 役 職 員 一 同</p>	<p>日蓮宗総本山 身延山久遠寺</p> <p>〒409 2593 山梨県南巨摩郡身延町身延 電話 〇五五六(二)一〇一一 FAX 〇五五六(二)一〇九四</p> <p>法 主 藤井 日 光 総 務 井上 瑞 雄</p>
<p>本門佛立宗本山 宥清寺</p> <p>〒606 8336 京都市上京区一条通七本松西入滝ヶ森町一〇五―一 電話 〇七五(四六三)四六二〇代 FAX 〇七五(四六三)四六五一</p> <p>住 職 野崎 日 丞 二十三世講有 執 事 長 佐 々 木 日 調 事務局 長 伊 藤 隆 之</p>	<p>日蓮本宗本山 要法寺</p> <p>〒606 8362 京都市左京区新高倉通孫橋上ル法皇町四四八 電話 〇七五(七七)三三九〇 FAX 〇七五(七七)五九一四</p> <p>責 首 嘉 儀 日 有 大 学 頭 丹 治 日 遠 執 事 長 野 間 正 明 執 事 岩 崎 広 義 執 事 原 光 明</p>	<p>本門法華宗大本山 妙蓮寺</p> <p>〒602 8418 京都市上京区寺ノ内通大宮東入妙蓮寺前町八七五 電話 〇七五(四五)三三二七 FAX 〇七五(四五)三五九七</p> <p>責 首 杉本 日 慈 執 事 長 飯 田 信 栄 役 職 員 一 同</p>	<p>法華宗(真門流)総本山 本隆寺</p> <p>〒602 8447 京都市上京区智慧院通り五辻上ル紋屋町 電話 〇七五(四四)五七六二 FAX 〇七五(四四)五六六六</p> <p>責 首 上 川 日 乾 執 事 長 矢 多 信 正 執 事 本 立 真 正 書 記 足 木 研 吾 書 記 永 岡 悠 希</p>
<p>日興上人御廟所 日蓮宗大本山 富士山重須本門寺</p> <p>〒418 0112 静岡県富士宮市北山四九六五 電話 〇五四四(五八)一〇〇四 FAX 〇五四四(五九)〇三〇三</p> <p>責 首 本 間 日 諄 参 与 井 出 教 道 参 与 井 井 親 雄 参 与 井 野 上 正 文 執 事 長 土 橋 興 照</p>	<p>日蓮宗本山 比企谷 妙本寺</p> <p>〒248 0007 鎌倉市大町一―一―五―一 電話 〇四六七(二二)〇七七七 FAX 〇四六七(二五)六九六七</p> <p>責 首 加 藤 日 暉 執 事 長 大 埜 稔 申 執 事 立 野 正 泰 山 務 役 職 員 一 同</p>	<p>日蓮宗大本山 妙顕寺</p> <p>〒602 0005 京都市上京区寺ノ内通堀川東入 電話 〇七五(四一四)〇八〇八 FAX 〇七五(四一四)〇八四八</p> <p>責 首 南 條 孝 仁 執 事 長 原 光 司</p>	<p>日蓮聖人出家得度《報恩》の靈跡 大本山 清澄寺</p> <p>〒209 5505 千葉県安房郡天津小湊町清澄三三二―一 電話 〇四七〇(九四)〇五二五 FAX 〇四七〇(九四)〇五二七</p> <p>別 当 岡 崎 日 泰 団 参 には是非、研修会館をご利用ください。 一 名 八 千 円、二 百 名 様 まで OK。</p>
<p>日蓮門下お題目初唱之靈場 日蓮宗東身延本山 藻原寺</p> <p>〒297 0026 千葉県茂原市茂原一―二〇―一 電話 〇四七五(二二)三三三三 FAX 〇四七五(二二)一七三三</p> <p>責 首 持 田 日 勇 執 事 長 増 田 實 泉 役 職 員 一 同</p>	<p>日蓮宗本山 頂妙寺</p> <p>〒606 8376 京都市左京区仁王門通川端東入大菊町九六 電話 〇七五(七七)〇五六二 FAX 〇七五(七五)一〇〇四</p> <p>参 与 山 田 完 恵 遠 同 同 安 田 信 行 同 同 伊 藤 隆 司 執 事 長 藤 井 照 源 執 事 二 之 部 知 孝 同 同 川 合 陽 雄</p>	<p>やくよけ祖師 日蓮宗本山 堀之内妙法寺</p> <p>〒166 0013 東京都杉並区堀之内三―四八―八 電話 〇三(三三三)六二四一 FAX 〇三(三三三)五〇〇七</p> <p>山 主 駒 野 日 法</p>	<p>日蓮宗大本山 法華経寺</p> <p>〒272 0813 千葉県市川市中山二―一〇―一 電話 〇四七(三三)三三三三 FAX 〇四七(三三)一七九六</p> <p>責 首 新 井 日 湛 執 事 長 渡 辺 貞 観 参 与 関 代 浩 康 同 同 田 代 教 敬 同 同 喜 多 村 行 俊 同 同 渡 辺 雅 俊</p>

門連時報

日蓮聖人御遺文辞典『教学篇』遂に刊行

現代に生きる我々が七百年の時を超え、日蓮聖人の御心に近づいたためには、まず何よりも遺文を開き拝することが必要となる。しかし、遺文に尋ね、聖人の意図を汲み取るうとするとき、そこには時間的・環境的・素養的隔たり等による言葉の壁が幾つもあることに気付く。そこで遺文と我々をつなぐ仲立ちとして、優れた解説書や辞典が必須となってくる。それらの参考文献が的確であり、確かな研究成果に裏付けられたものであればあるほど、我々は日蓮聖人の御心に、より近づくことが出来るわけである。

扱このたび、立教開宗七百五十年慶讃事業の一環として『日蓮聖人遺文辞典教学篇』が身延山久遠寺より発行された。日蓮宗の協賛を得て、編集は立正大学日蓮教学研究所が行い、業務開始から十六年の歳月を経て平成十五年十月、完成に至った。さかのばれば、昭和二十七年に立教開宗七百年記念事業として『昭和定本日蓮聖人遺文』が発行され、昭和六十一年には宗祖七百遠忌記念事業として『日蓮聖人遺文辞典歴史篇』が刊行されたが、待望久しい『教学篇』が遂に完成を見たのである。

本書の総項目数は九六〇九項目、頁は四段組で二二九二頁にのぼり、『歴史篇』と合わせると二〇三五九項目、二五一八頁に及ぶ。本書は宗義に関する語彙に止まらず、天台教学をはじめ諸宗教学の用語、遺文にみえる諸経の術語などを広く選定し解説している。大項目主義と小項目主義を併用し、『一念三千』『大曼荼羅』『勝法』等、三四頁にわたる大項目がある一方、それらに関連する子項目も一項目として立てて解説している。引用経論の文については所収文献の巻数・頁・段まで表記し、利用者の便を図っている。また、真蹟遺文・疑偽書・講記のいずれも表典とする語彙が明らかとなるよう表記している等の特色を持つ。その内容は現時点における日蓮教学研究・御遺文研究の最新の研究成果を示している。本書を常に座右に置き、日蓮聖人遺文拝読の指南書として大いに活用されることをお勧めする次第である。

なお本書の販売は、身延山せいしん(〇五五六六―一二〇三三)、日蓮宗新聞社(〇三三七五五―一五二七二)、山喜房佛書林(〇三三三八―一五三六二)等で行われている。

全門連京都理事会・懇親会、日蓮宗大本山本圀寺で開催



平成15年11月27日 日蓮聖人門下連合会京都理事会 於日蓮宗大本山本圀寺

平成十五年十一月二十七日(木)、日蓮宗大本山本圀寺(久村日鑿貫首)に於いて「全門連京都理事会・懇親会」が開催され、各本山貫首をはじめ門連役員あわせて約五十名が参加した。午前十一時より「全門連常任理事会」開催。昼食後、午後一時より久村日鑿貫首御導師のものと法味を言上。本堂にて記念撮影の後、午後二時より書院にて同じく久村日鑿貫首による「本圀寺の沿革」について大変貴重なお話を拝聴した。

引き続き、午後二時四十五分より「理事会・懇親会」が開催された。参加者各自の自己紹介の後、岩間湛正全門連理事長を座長に議事を行う。まず人事の件について、門連相談役に日蓮宗・感應寺住職伊藤通明師、法

華宗陣門流理性寺住職牧野琢成師の二名が理事会の推薦を受け、就任することが決定した。

続いて全門連上半期事業報告、そして京都門下連合会の活動報告、大阪門下懇話会の行事並びに活動報告があった。また門連の七五〇事業であった「大日蓮展」の決算報告について、事務局より決算報告書(二頁参照)が提示され、詳細にわたって収支報告がなされた。

会議終了後、懇親会の席を「菊水」へと移し、晩秋の京都を満喫した。

今回種々お世話いただきました京門連の各聖、本圀寺の皆様には厚く御礼を申し上げますと共に、今後とも門下発展の為に御尽力賜り度く重ねてお願い申し上げます。

『妙法の行進』行われる

第一回妙法の行進は、平成十五年六月三日(七日)、門下有志により仏教国として戦乱より復興しつつあるカンボジア王国にて、総勢三百名を超える上座部僧侶と共に、現地語に翻訳された『要約妙法蓮華経』を町や村の家庭に施本しながら唱題行進を行いました。

仏教による世界平和実現のため、自ら参加を願う青年僧や信者の行列で町は溢れ、その模様は各新聞の一面記事となり、現地のテレビニュースでも放映されました。

そこで本年度も、首都プノンペンならびにアンコールワット遺跡のあるシエムリアップを訪れる、第二回『妙法の行進』の開催が左記の通り決定されました。



第1回「妙法の行進」

【第二回「妙法の行進」概要】
 ■開催期間：平成十六年五月三十一日(月)～六月五日(土)
 ■募集人数：約三十名
 ■参加費用：一人 十五万円予定
 shamon@mvi.biglobe.ne.jp

■申込締切：平成十六年四月二十日
 ■お問い合わせ先：妙法の行進事務局 土屋信裕
 〒818-0035 福岡県筑紫野市美しが丘北三二〇-1
 電話&ファックス 092-926-8031
 電子メール

藤井日光日蓮宗管長、全日本仏教会新会長に就任

全日本仏教会(東京都港区)は二月二十八日、京都市内のホテルで理事会を開き、新会長に日蓮宗の藤井日光管長(94)を推戴した。任期は二年。

▼御連化(事務局への連絡日を含む)		▼人事(事務局への連絡日を含む)	
年月日	氏名	宗派	門連役職
平成一五・九・九	齊藤隆彦	法華宗真門流	常任理事
	竹内正道		理事
	木村完祥		就任
平成一五・一一・二一	青木日新	本門佛立宗	監査
平成一五・一一・二七	牧野琢成	法華宗陣門流	相談役
平成一六・一・一	上川日乾	京都門下連合会	顧問
平成一六・一・一	矢放眞文	京都門下連合会	常任理事
平成一六・一・一	杉若惠隆	京都門下連合会	常任理事
平成一六・一・一	杉若惠隆	京都門下連合会	就任
平成一六・一・一	鳥田幸晴	京都門下連合会	理事
平成一六・一・一			就任
			退任

毎月3回お届けします。信仰・ふれあい・笑顔…

宗門唯一の日蓮宗新聞

伝道機関紙 毎月1日・10日・20日
 年間購読料3,600円(送料込)

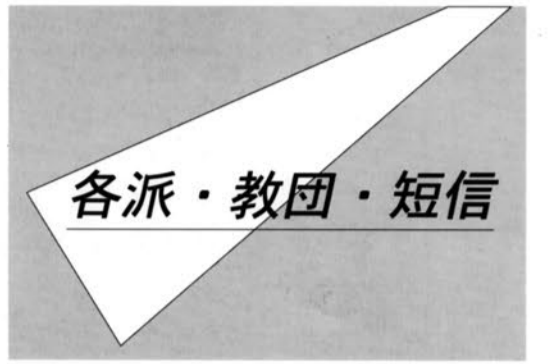
教誌 **正法** 一冊350円(送料別)
 年間購読料1,700円(送料込)

○年4回発行
 お正月(1月号)/春季彼岸(3月号)
 お盆(7月号)/お彼岸・お会式(9月号)

詳しくは…

(株)日蓮宗新聞社
 〒146-0082 東京都大田区池上7-23-3
 TEL.03-3755-5271 / FAX.03-3753-7028
 nichiren@t3.rim.or.jp
 http://www.t3.rim.or.jp/~nichiren/
 (業務時間 午前9時30分～午後5時)

日蓮宗新聞社のお店
 〒146-0082 東京都大田区池上4-18-1
 TEL&FAX.03-3755-6462
 (業務時間 午前10時～午後4時)
 ※いずれも土・日・祝・祭日休み



各派・教団・短信

本門佛立宗

去る、10月12日、本山有清寺(京都)高祖会に於いて、山内日開師を宗務総長とする第二十五期...

青年教務会では、昨年2月より、全国の各寺院へ、開講一五〇年奉賛御奉公成就に向けての、一五〇奉賛啓蒙全国助行を展開している。

日蓮宗

日蓮宗静岡県沼津市の妙海寺(笹津海道住職)で格護されている弘安3年5月の日蓮聖人曼荼羅本尊から聖人御自身のものとみられる指紋が見つかった。

学名教授が確認。聖人の実像を肌で感じることで大きな発見につながる可能性が高い。

指紋が見つかった曼荼羅本尊は、日蓮聖人六十歳の弘安3年(一一八〇)5月8日に顕示されたもので、大きさは九九センチ×幅五五センチ。

さらに花押部分の指跡に関しては、ちょうど同じ日に揮毫された日華上人授与の曼荼羅本尊(法華宗本門流大本山・京都本能寺蔵)の存在も関係しているという。

中尾教授は「文字中に残された指紋からは、日蓮聖人が揮毫の力を込めて曼荼羅本尊を揮毫されていた尊いお姿が伺われ、聖人の実像を身近に感じることのできる数少ない例となるのではないかと語っている。

22日、午前十一時から宗務院五階講堂で管長就任奉告式が行われ、管長推薦委員会の委員長・副委員長をはじめ、各本山貫首・宗会議員・宗務所長ら僧侶約七十人が参列した。

はじめに岩間総長が「藤井日光院下にはご法体ますますご慈愛の上、立

教開宗七百五十年以後の伝道宗門の展開に向けてご教導賜りたくお願い申し上げます」と式辞を述べ、管長推薦委員会の堀龍雄委員長が藤井管長院下へ推薦書を奉呈。

続いて堀委員長が今般の管長推薦の経過について「11月20日、委員長召集によって管長推薦の件についてお計りいたしました結果、全会一致で身延山久遠寺法主藤井日光院下を引き続き第五十代日蓮宗管長にご推戴申し上げた次第であります」と報告した。

これを受け、最後に藤井管長院下が「平成11年より本日まで、皆帰妙法の大旗の下、国の内外を問わず巡錫し精進してまいりました。今般ここに任期満了にあたり、再び推され第五十代日蓮宗管長に就任することになりましたが、身は軽くして法は重しの御教えのままに宗徒と共に仏祖の願業成就に向けて一路邁進せんことを誓願いたします」とご挨拶された。

翌24日の24日、藤井管長院下は、岩間総長と井上瑞雄身延山総務をはじめとする宗務院内局・身延山重役と共に日蓮聖人ご廟前での就任奉告式に臨まれ、最後に久遠寺の大本堂で、藤井院下は「僧俗共に異体同心の祖訓を報じ、立教開宗七百五十年以降に向けて伝道宗門いよいよ興隆ならしめたまえ」とご宝前に祈願なされ、一連の管長就任奉告式を修了した。

7月16日、宣正会慶讃法要厳修。19日、日蓮聖人門下ネットワーク街頭演説開催(毎月1回、都内主要箇所において)。30日、田中暉兵衛主以下明治神宮参拝、明治天皇祭厳修。

9月6、7日、京都にて全国青年の集い開催。12日、小松原法難会慶讃法要厳修。16日、田中賽主、スリランカ大菩提会主催ダルマパーラ師

生誕祭へ向う。27、28日、式士任用試験開催。10月10日、佐渡法難会慶讃法要厳修。12日、池上本門寺にて日蓮主義池上宣言。13日、聖祖鶴林会報恩法要厳修。

11月1、2日、身延大祖廟輪番給仕国社会奉仕団奉行。11日、小松原法難会慶讃法要厳修。16、17日、恩師田中智学先生第六回忌報恩大会開催。

12月24日、天長節慶讃法要厳修。31日、送旧迎新法要厳修。9月30日、10月1日の二日間、京都総本山妙満寺において宗務院布教部主催の「全国布教師研修会」が開催された。

10月29日、千葉市土気善勝寺に於いて、「東部連合会先師報恩法要並びに講習会」が開催された。講師として島田幸晴本山総務をお迎えし、「本山の愛情と将来」と題して、本山の歴史を踏まえた現状と、将来の展望が語られた。

11月4日、京都総本山妙満寺に於いて、宗務院布教部主催西部僧侶講習会が、講師に京都文教大学臨床心理学科教授、濱野清志氏を、また、11月10日、東京品川別格天妙国寺に於いて、同東部僧侶講習会を、講師千葉大教育学部助教授、諸富祥彦氏をそれぞれお招きして、「現代の様々なストレスに対して、人の心を癒すにはどうすれば良いか」をテーマに講演頂いた。

11月26日、27日、「日什門流懇話会」が、静岡県南町日蓮宗妙高寺を会場に開催された。西片元講師を講師にお招きして、「絵解き」なる表現法「五種法師「解脱」の模索」を講じた。OHIPを用いて興味深い講演を頂いた。その後、会場を伊豆長岡温泉ささや竹翠亭に移して懇親の宴が催された。

9月9日、新内局発足。内局事務引会開催。10月5日より秋季学林開講、三十数名の学林生が受講。同月12、13日、総本山本隆寺にて、初転法輪挙行。本年は3名が初転法輪に臨んだ。

12月4、5日、平成15年度定期宗会開催。内局提案の議案を慎重審議の上可決された。9月9日、法華宗中央行学講習会が北海道・旭川に於いて開催された。この講習会は毎年この時期に行われるもので、宗内八教区が持ち回りで担当し、講師の先生をお招きし共に学ぶのもともより、普段あまり訪れることのない他教区の寺院を訪れ親睦を深めるものである。本年も全国より百名を超す教師が集った。

11月15日、16日の二日間、東京・果鴨宗務院を会場に統合協議会統合学院後期学生講座が陣門流当番宗のものと開講された。法華宗陣門流・法華宗真門流・法華宗三宗より多くの学生が訪れた。講師は法華宗陣門流・田端大久寺住職佐古弘文先生で、演題は「仏教入門」であった。

12月2、3日、新任職学生沙弥合同研修会が果鴨宗務院において開催された。陣門教学入門・布教方法の実際の講義、法話実習が行われ、多くの学生と共に学んだ。

今井満良(大本山妙蓮寺)が、静岡県南町日蓮宗妙高寺を会場に開催された。西片元講師を講師にお招きして、「絵解き」なる表現法「五種法師「解脱」の模索」を講じた。OHIPを用いて興味深い講演を頂いた。その後、会場を伊豆長岡温泉ささや竹翠亭に移して懇親の宴が催された。

7月23日、臨時宗議会議開催。10月11日、法華宗本門流「日正院下(茂原・鷲山寺貫首)の法話集」役に立たない命など」が発行された。現下は我が国最初の月刊仏教誌を発刊した獅子吼会の会長・導師でもある。本書には、「仏教に根ざした個々の人間の有り様、あるべき姿、如何に生きるか」といった本質的な内容の話がまとめられている。お求めは講談社出版サービスセンター(電話03-3941-5572)。

日慶・日忠・日応各聖人三師会並びに歴代上人年忌法要を併修。本門法華宗学院(藤井宏長学院長)では、第一〇七回教学講習会を平成15年9月16、17日、第一〇八回教学講習会を11月17、18日に大本山妙蓮寺卯木講堂にて開催。第一〇八回教学講習会においては、受講生の吉村光敬・真鍋圓隆各師より教学研究発表が行われた。

同布教部より本門法華宗布教紙「信行」第一六〇号正月号。同布教誌「生きる」第四一〇号雪華号がそれぞれ平成16年1月1日付で発刊。各末寺にて檀信徒に配布された。

管長・大塚(木村光正)日正院下(茂原・鷲山寺貫首)の法話集「役に立たない命など」が発行された。現下は我が国最初の月刊仏教誌を発刊した獅子吼会の会長・導師でもある。本書には、「仏教に根ざした個々の人間の有り様、あるべき姿、如何に生きるか」といった本質的な内容の話がまとめられている。お求めは講談社出版サービスセンター(電話03-3941-5572)。

9月9日、法華宗中央行学講習会が北海道・旭川に於いて開催された。この講習会は毎年この時期に行われるもので、宗内八教区が持ち回りで担当し、講師の先生をお招きし共に学ぶのもともより、普段あまり訪れることのない他教区の寺院を訪れ親睦を深めるものである。本年も全国より百名を超す教師が集った。

11月15日、16日の二日間、東京・果鴨宗務院を会場に統合協議会統合学院後期学生講座が陣門流当番宗のものと開講された。法華宗陣門流・法華宗真門流・法華宗三宗より多くの学生が訪れた。講師は法華宗陣門流・田端大久寺住職佐古弘文先生で、演題は「仏教入門」であった。

12月2、3日、新任職学生沙弥合同研修会が果鴨宗務院において開催された。陣門教学入門・布教方法の実際の講義、法話実習が行われ、多くの学生と共に学んだ。

イラクの独裁者「サダム・フセイン拘束」という衝撃的な報道は、昨年12月14日(日)午後9時のことであつた。逃亡八ヶ月目、故郷の小さな穴に隠れていたといふ。イラク国民は一体どんな気持ちでこのニュースを耳にしたのであろうか。人間は生まれながらにして邪悪な者はいない。生まれながらにして善い仏子であつたはずなのに……何故一人の人間をここまで悪鬼にさせてしまったのであろうか。人の心には誰にも悪鬼が潜んでいる。その芽が出ないように生きることが大事である。人間国宝である武原はん氏の言葉に「かけた情けは水に流し、受けた恩は石に刻め」とある。しかし今の世の中は「かけた情けは石に刻み、受けた恩は水に流せ」という身勝手な人が多い気がしてならない。今こそ我々門下は法華経と出逢えたご恩を胸に刻み、お題目を世に弘めていくことが使命ではないか。(順)

日蓮聖人門下連合会 目的 本会は日蓮聖人の理想を実現するため、祖廟を中心として門下各派及び教団並びに地方門下連合会の連絡、協力、団結を強化することを目的とする。

事業 本会は前条の目的を達成するため、左の事業を行う。 1、祖廟維持の組織強化 2、教育事業の提携 3、布教の連合強化 4、懇談会・研究会・講演会等の開催 5、各種出版物の刊行 6、海外布教の提携及び交流 7、対外的な各種の運動 8、その他

加盟団体 日蓮宗 法華宗本門流 日蓮宗 法華宗陣門流 本門佛立宗 日蓮宗 法華宗真門流 本門法華宗 柱 会 日本山妙法寺 京都門下連合会

加藤 宗 法華宗本門流 日蓮宗 法華宗陣門流 本門佛立宗 日蓮宗 法華宗真門流 本門法華宗 柱 会 日本山妙法寺 京都門下連合会